

## ■ 「地域でのつながり創出を大切に」

(矢倉学区未来のまち協議会)

### 1 【活動の趣旨】

矢倉学区では「地域協働合校」の主旨に則った活動を複数の事業に取り入れて実践している。1泊2日の「こども防災キャンプ」や、地元の「草津川探検」、立命館大学学生団体協力の「サイエンススクール」「夏休み宿題」など、既存事業以外の新しい取組も進めている。

### 2 【特徴的な活動内容】

○「こども防災キャンプ」: 大人の防災意識改革によりこどもが大災害後、生き残る為に企画した。避難生活を体得するため「希望が丘公園」と共同でメニュー作りを進めて今年で4年目。毎年微調整を繰り返し参加するこどもも増加している。

日 時: 令和7年7月12日(土)～13日(日)

実施場所: 希望が丘文化公園、野外活動センター

参加者: こども22名、大人9名、希望が丘6名

○「草津川探検」: わんぱくプラザ事業の中の活動で地域に愛着を持てるように企画し、滋賀県びわ湖環境科学研究センターの協力を得て地域の有志で支援。

日 時: 令和7年8月9日(土) 8:30～11:30

実施場所: 草津川宮前橋～立木橋間、河川敷内

参加者: こどもと保護者44名、スタッフ5名



【こども防災キャンプ】



【草津川探検】

### 3 【実施に当たっての工夫】

○恒例化してきた「こども防災キャンプ」は、熱中症予防の為、タイムスケジュールを効率化し1つでも多くの経験ができるよう毎年微修正を重ねて講座数を追加した。座学以外では毎食自炊のメニューも時間短縮や体験企画を加えて内容を充実している。

○「草津川探検」では河川内の利用箇所変更や、河川内での活動時間調整、屋外で日光を回避し橋の下に教室コーナーを設置。集合場所や方法変更による移動時間圧縮実施、親子での活動重視や先生の生物教室時間も拡大した。

### 4 【事業の成果】

「草津川探検」は親子参加にする事で、保護者どうしの交流のきっかけにもなり、親子の連携で毎年「いきもの」収穫数も増えてきている。

「こども防災キャンプ」は大人の事前準備とこどもへの説明方法を工夫して時間短縮して実施した。初日は13:00～翌日16:00までだが、体験メニューが豊富で、夜間～翌朝の自由時間では大自然の中を探検や昆虫集めなど、こどもは非日常を120%満喫していた。最初は学年も組も違い言葉は少なかったが、途中からきょうだいのようになっていた。

### 5 【事業の今後の展望】

立命館大学大学生団体とのコラボ事業で、わんぱくプラザ事業内の「ライフサイエンス教室」や「BohNo の手作り給食」に加え次年度より「夏休み企画」を追加企画し、今後龍谷大学ボランティアグループとの新規事業展開も進めていきたいと考えている。また、親子参加事業の内容を充実させる事で大人がこどもを通してつながる地域交流促進に結び付けたいと考えている。